進捗状況報告シート

(2011年度•大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ. 評価項目・要素と担当部局

. 叶曲头白 安米C但当即问		
対象部局	教育学研究科	
大項目	6 教育内容·方法·成果 (研究科)	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	
	教育目標と学位授与方針との整合性	
	修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性	
	社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

Ⅱ. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

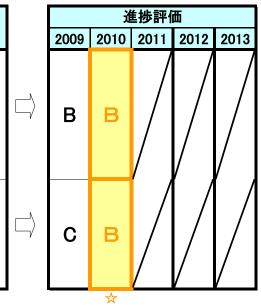
《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。 進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

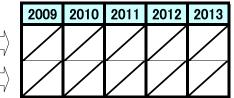
A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。

: 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」		
2000千及に改定した。 日保」	在配口深97.167米]		2009
1. 大学院設置の理念に基づく教育目標の明示方法を検証し、その改善を図る。	→「研究科ホームページにおける 研究科の理念・目的・教育目標の 明示の有無」「履修の手引きにお ける研究科の理念・目的・教育目 標の明示の有無」「研究科ホーム ページの内容を検討する委員会の 有無と開催頻度および検討状況」	\Box	В
2. 大学院の教育目標と教育課程の整合性を検証し、その問題点を抽出し、改善を図る。	→「研究科の教育課程を常に検討する委員会の有無と検討状況」「学生による授業評価の実施率」「学生による授業評価を受けた授業改善の方策の作成と公表の実施率」	\Box	С



2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」		2009	2
	\rightarrow	\Box		
	\rightarrow	\Box		



《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→ ● 明示している ○ 明示していない
小項目6.1.1	(学位授与方針) 「子ども理解」を基礎に、現代の複雑で困難な教育問題に向き合い、同時に高度な専門性によって指導的な 役割を担うことのできる「教育者」(専門的教育者)と研究者を養成する。
	(説明)教育学研究科のホームページおよび、関西学院大学大学院案内に、上記方針を図と共にわかりやすく明示している。
	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
小項目6.1.2	
	(説明)教育学研究科履修心得に教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施の方針を明示している。

6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。

小項目6.1.3 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない (説明)教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施の方針を教育学研究科履修心得に詳しく掲載すると共に、関西学院大学大学院案内に要点を掲載している。

6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない 研究科委員会で教育課程の編成について検討し、ゼミ (研究演習)の担当者の増員、新設科目を設けるなど改善を図っている。

《評価指標データ》

カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

必修・選択ごとの開設授業科目数

系列別卒業必要単位数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項	※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。
	一个口法グだが肝臓が「ハングの口は光・プロだして、ただって

	カ・フ C いる 手項 然日保の進歩計画が「A」の場合は必ず記述して、たさい。)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
小項目6.1.3	
小項目6.1.4	前期課程の研究演習について、学生の選択肢を広げるため、来年度以降の任用人事審査を行い、研究演習担当者を8名増員した。また、幼児教育学領域科目(選択)に新科目、「子どもの家庭福祉学特殊講義」を加えた。(意見交換後、削除。Ⅳ. 追加記述参照)
その他	
欠年度に向け	ナた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点	検·評価((2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
☆	小項目6.1.1	
	小項目6.1.2	
	小項目6.1.3	ホームページ掲載内容の再検討
	小項目6.1.4	
	その他	
《次	年度に向け	ナた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
	小項目6.1.1	
	小項目6.1.2	
☆	小項目6.1.3	ホームページ、および履修心得に教育学研究科の学位授与方針および教育課程についてよりわかりやすく掲載するため、その 内容を、広報委員会、研究科委員会で検討する考えである。
	小項目6.1.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆

その他 (自由記述)

皿. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

学外委員

○小項目6.1.4の「現状の説明」は、カリキュラムに関することなので、中項目6.2に配置するほうが適切と思われます。「効果が上がっている事項」の記述も同様です。

【学内委員】

- ○現状の学位授与の方針は、教育目標であり、どのような能力を獲得した学生に学位を授与するのかという観点で記述することが望まれま す
- ○学位授与の方針欄に記載の内容は養成する人間像です。学位授与の方針は、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(修了要件)等を明確にしたものであり、理念・目的を踏まえ、設定されているものです。方針に関し追加記述を求めます。 ○小項目6.1.1の(方針)には、学位授与方針そのものを書いてください。現記述の内容は学位授与方針ではありません。大学基準協会の 留意すべき事項を参照してください。
- ○小項目6.1.2では、方針の概略を示してください。
- ○小項目6.1.3では、大学基準協会の留意すべき事項にもあるように、ホームページによる公表を欠かすことが出来ません。すでに掲出されていると思いますが、この点についての説明が必要でしょう。
- ○昨年度、伸長させるための方策や改善方策で示されたことがどうなったか示す必要があるでしょう。そのことでPDCAサイクルが機能して いるか確認できます。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1

基盤評価:「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与 方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」

達成度評価:なし

○小項目6.1.2

基盤評価:「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」

達成度評価:なし

○小項目6.1.3

基盤評価:「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」

達成度評価:なし

○小項目6.1.4

基盤評価:なし

達成度評価:「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施 方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》6.1.1の(学位授与方針)部分を下記のように修正。

(学位授与方針) 前期課程においては、①2年以上の在学(休学期間は算入せず)、②必修科目「幼児教育学演習」もしくは「臨床教育学研究演習」8単位と選択科目24単位の合計32単位以上を修得、③修士論文審査合格のすべての条件を満たした学生に、修士(教育学)の学位を授与する。後期課程においては、①3年以上の在学(休学期間は算入せず)、②必修科目「研究演習」12単位の修得、③博士論文審査合格のすべての条件を満たした学生に、博士(教育学)の学位を授与する。

《現状の説明》6.1.2の(学位授与方針)部分に下記のように追記。

研究科目である「幼児教育学研究演習」と「臨床教育学研究演習」以外はすべて選択科目であり、学生が幼児教育学領域と臨床教育学領域 の授業科目を幅広く履修することができるよう編成されている。

★ 《現状の説明》6.1.3に下記のように追記。

(説明) 教育学研究科のホームページ上にも掲載することを検討中である。

《現状の説明》6.1.4に下記のように追記。

また、実施方針についてもその適切性を検討している。

学内第三者評価を受けて、効果が上がっている事項6.1.4の記述をすべて削除する。

改善すべき事項6.1.3を下記のように修正。

ホームページの内容については、昨年度からの検討事項であるが、まだ改善することができていない。